

I 自己評価

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ風気を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○落ち着いた態度で授業を受けることができ、学校での授業を大切にしている生徒が多い。 ○納得できる進路選択が行えるように、提供された進路情報を的確に活用している生徒が増加してきている。 ▲自ら設定した課題に対して、情報収集し、発表資料を作成することはできるが、課題の探究方法や解決策が提示できる生徒が少ない。 ▲自ら描いた将来像はあるが、実現に結びつけるための自主的・主体的な学習行動に移せない生徒が多い。
3 学校の抱える課題	・公開授業、ICTの職員研修会の意義を全職員が意識し、生徒が主体的に活動でき、それが学習の理解に繋がる授業改善が必要である。 ・正しい進路情報を的確に伝え、様々な情報から自らにとって価値のある情報を生徒自身が見極められるような指導が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	◇思考力・判断力・表現力及び自ら主体的に学ぶ意欲、学ぶことの意義を理解させ、教師一人一人が積極的に授業改善に取り組む。 ◇一人一人の生徒が自己を正しく理解し、自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択決定できるよう指導に努める。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	①公開授業旬間の実施における 公開授業の推進とICTに関する 職員研修会の実施	①公開授業の実施率、生徒・保 護者アンケートの項目別集 計	①公開授業実施率は100%であった。アンケート の肯定的評価について、生徒対象の数値は昨 年度より増加したが、保護者対象の数値は減 少した。タブレット導入後、学習支援ソフト 「MetaMoji」の職員研修会を実施した。	B	○オンラインの積極的な活用と、 ICTの職員研修会が実施できた。 ▲ICTを活用した授業実践の推進 及び学習理解度の向上を図る。	Ⓐ B C D
	②チャレンジ講座等補習授業の 充実や多目的教室(自習室)の 利用	②生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	②アンケートの生徒の進路指導の項目について 数値が昨年度より向上した。	A	○自習室の積極的活用が目立つ。 ▲補習講座の時間確保が困難とな った。カリキュラム改変と併せ て検討し、生徒への課題内容に ついては検討していきたい。	
進路指導	①ホールルーム活動と総合的な探究 の時間を連動させた指導	①生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	①進路希望に応じた説明会等を効果的に実施し たので、生徒アンケートの進路情報などに ついて数値が昨年度より向上した。	A	○全ての生徒に対して、一人一人 の進路目標実現や個性を活かし た将来設計へ向けた具体的なア ドバイス、指導を行うことがで きた。 ▲効果的で的確な進路指導を行う には保護者との連携が不可欠で ある。学校での指導に対する保 護者の信頼感を高めるため、早 期から進路情報に関する親子の 対話を深める援助を検討してい きたい。	
	②3年間を見通した進路シラバ スを含んだ進路の手引きの作 成	②保護者等を対象とする授業 アンケート及び卒業生を対 象とするアンケート結果	②進路のしおりに大学紹介(卒業生アンケート) を掲載し、進路目標達成に向けた具体的な道 筋を思い描けるように工夫した。	A		
	③望ましい進路実現のための懇 談等の積極的な実施	③生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	③オンラインによる定期的な学年集会や、外部 講師を招いての講演会を行うことでその時期 に応じた進路情報を伝達した結果、情報提供 についてのアンケートデータが向上した。	A		

II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年2月18日

1 ICTの活用については今後一層の工夫をされることを望む。
2 コロナ禍で計画どおり進めることが難しかったと思うが、今後も将来を見据えた学習指導を期待する。
3 オンラインを活用することで生まれるつながりに深みをもたせて、課題や目標を設定していくことを期待する。

12 来年度に向けての改善方策案

1 「MetaMoji」の活用法だけでなく、それ以外を利用した授業方法の研究研修も進めていきたい。生徒が自宅待機時のオンラインの活用法の研修をする。
2 オンラインによる大学や学部の説明会を利用することで、個に応じたきめ細かい進路支援を講じたい。また、外部講師や予備校からの情報を活用することで、キャリア教育を踏まえた進路指導の体制を位置付ける。

【別添2】（様式例1） **令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（総務・生徒指導・教育相談・保健厚生）**

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ風風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○生徒の学習意欲は比較的高く、学校行事や部活動などにも意欲的に参加する生徒が多い。 ▲温厚で真面目な生徒が多いが、自らが計画し、積極的に活動する生徒が少ないように思われる。
3 学校の抱える課題	・情報モラルなどの社会的な倫理観が欠如している生徒が少なからずいる。 ・交通ルールを遵守した自転車運転ができない生徒が存在し、交通事故が起こる原因にもなっている。 ・温厚で真面目であるが、元気よく気持ちの良い挨拶ができず、上手にコミュニケーションできない生徒がいる。
4 今年度の具体的な重点目標	◇家庭と学校の緊密な連携・協力により、生徒の教育効果の向上及び福祉の増進を図る。 ◇信頼と愛情に基づく生徒理解の徹底を図り、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ◇全職員による全生徒に対する相談活動を推進し、一人一人が生きがいをもち、心豊かな学校生活を送れるように支援する。 ◇生徒に、健康と安全に対する意識の高揚を図り、新型コロナウイルスに感染しない知識と行動力を身に付けさせる。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導 育友会	①MS リーダーズや育友会役員と ともに交通安全・挨拶運動の実施	①交通事故件数の増減	①MSLは毎水曜日、保護者には今年度は2回の運動協力をいただいたが、大幅な減少とはならなかった。	B	○育友会、MSLの挨拶交通安全運動によって、笑顔で挨拶のできる生徒が増えてきた。 ▲交通マナーは命に関わる大切な問題として、今後も粘り強く指導していく。	A B C
	②身だしなみ指導	②生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	②アンケート項目の生徒指導の数値は、概ね例年と変わらない水準である。	B		
	③交通マナー・生活マナーの向上	③生徒・保護者アンケート	③継続的な啓発活動、指導を行いつているが、マナーの向上には至っていない。	B		
生徒指導 教育相談	①「いじめ・迷惑調査」の実施	①いじめの発見と事後指導	①年間5回の「迷惑・いじめ調査」を今年度からはWebで実施し、把握に努めている。	B	○「いじめ・迷惑調査」「SERAPLUS」「心のアンケート」の事後指導により、いじめの未然防止、即時対応や問題生徒の把握及び即時対応ができた。 ▲調査での完全な把握は困難であるが、調査方法を研究していく。	D
	②「SERAPLUS」「心のアンケート」の実施	②心身に問題が生じている生徒の把握と事後指導	②「SERAPLUS」を年1回「心のアンケート」を年12回実施し、心身に問題が生じている生徒の把握と、事後指導を実施した。	B		
	③人権教育の推進	③人権LHRの評価	③各学年、ホームルームで工夫ある取組をした。	B		
保健厚生	①「命を守る訓練」等の防災訓練による防災意識の向上	①訓練の参加態度及び避難完了までの時間	①「命を守る訓練」は実施できず。	C	○新型コロナウイルス感染予防の行動はできている。 ▲2年連続「命を守る訓練」が実施できず、「シェイクアウト」「避難経路の確認」にとどまった。また、職員の「救命救急講習」も実施できていない。	
	②新型コロナウイルス対策	②感染予防行動（換気、マスク、手洗い、黙食）	②教室等の換気、マスク、手洗い、黙食等の行動はできている。	B		
	③健康診断の事後措置	③受診報告書の提出率の向上	③前期に行う予定の歯科検診が、コロナの関係で後期に実施したため、受診報告書の提出が例年より遅い。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月18日

1 校則については生徒との話し合いを進める中で、生徒の意識も変化してくるのではないかと期待している。
2 「心のアンケート」「いじめ調査」が形骸化しないよう工夫することを期待する。

12 来年度に向けての改善方策案

1 生徒が自ら考え、集団の一員として己を律することができるように、教材を工夫して提供する。
2 SCによるコミュニケーション講座を企画する。
3 東南海地震や洪水などの災害への備えを充実させる。

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ風風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○学校行事、ボランティア活動に意欲的に参加している。 ▲リーダーを養成する機会が不足。（クラス独自のLHR時間を増やす）
3 学校の抱える課題	・大人しい生徒が多く、積極的にリーダーシップが取れる生徒が減少してきている。 ・学校行事を企画・立案・先導する力が乏しい生徒が多い。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒の自主的、実践的活動の推進と帰属意識の高揚に努め、社会の一員として自主的、実践的な態度を育て自己を生かす能力を養う。 ◇科学的な思考力、創造力を社会に還元できるような豊かな人間性と実行力をもった生徒を育成する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒会活動	①生徒会活動、学校行事等の自主的な企画・運営	①生徒や職員から寄せられた声	①休校措置による急な準備期間の短縮にも対応して、映像作品の発表など新しい形式で文化祭を実施することができた。	B	○コロナ禍でも学校行事を実施するために、創意工夫をした。生徒の意見をまとめ、学校側と交渉する力がついた。 ▲生徒の視線で生徒の活動を支える学校や職員の態勢を整える。	A B C
	②リーダーの養成	②生徒や職員から寄せられた声	②生徒のリーダーと教員とのコミュニケーションを積極的に取り課題を共有し活動している。	B		
	③ボランティア活動などの地域活動への積極的参加	③外部諸団体、学校関係者から寄せられた声	③ほとんど実施できなかったが、校内募金のみ実施できた。	B		
HR活動 部活動	①ホームルーム活動における集団生活の適応力及び人間関係の醸成	①生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	①友人との良好な関係作りやコミュニケーションを図る場として活用している。クラス単位の活動には積極的に取り組んでいる。	B	○全国で上位以上の成果を収める部（水球）が出た。 ▲より一層の部活動環境の整備を図っていく。	D
	②集団で協力する態度の育成	②生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	②コロナ禍で通常の活動ができない状況でも、創意工夫して積極的に部活動に取り組んでいる。	B		
理数科	①近隣の小学校へ実験等理科教育活動の提供	①生徒及び小学生を対象とするアンケート結果	①実施できなかった。	D	○理数分野への興味関心を高め、主体的に取り組む姿勢を養うことができた。	
	②課題研究への取組	②課題研究報告会の公開	②リエーションの数を増やし、研究、発表の方法を学びながら、探究活動を実施することができた。	A		
	③適切な進路指導の選択を含めた校外研修や専門的な講義の実施	③高大連携講座等の実施	③高大連携講座を通して、自然科学分野の研究内容を知り、進路選択の参考にすることができた。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月18日

12 来年度に向けての改善方策案
1 制限されることが多い中、文化祭や部活動、HRの活動に積極的に参加できる環境を整えられたことは評価できる。 2 オンラインによる理数科の小学校への情報提供などは検討する価値があるのではないかと。

1 学校行事や校則について、生徒が自分の問題として捉えて考えたり、行動することができたりするように、生徒会活動を活発化していく。そのための方策として一般生徒が意見を出す場を創出する。 2 理数科教育に関わるオンラインによる講座なども取り入れて、少しでも多くの事業を実施する。
--